

研究班番号【 5 】
高校ラグビー人口減少の謎

保健班: 稲田 智之、向山 雄仁

Abstract

The purpose of this study is to increase the declining number of high school rugby players. The survey was conducted from the perspective of the students and their parents about the reasons why they started playing sports. The experiment showed that it is important to make students interested in playing rugby and to create places where they can play rugby. In conclusion, increasing opportunities which students play, such as advertisements of rugby schools and trial classes, leads to an increase in the number of high school rugby players.

要約

本研究の目的は、減少傾向にある高校生のラグビー人口を増加させることである。スポーツを始める・始めさせるきっかけを本人及び保護者目線でアンケートを実施した。実験から、競技者本人の意思とラグビーができる環境づくりが大切だとわかったため、ラグビースクール等の宣伝、体験教室等を増やし、少しでもラグビーに触れることが高校ラグビー人口の増加に繋がると結論付けた。

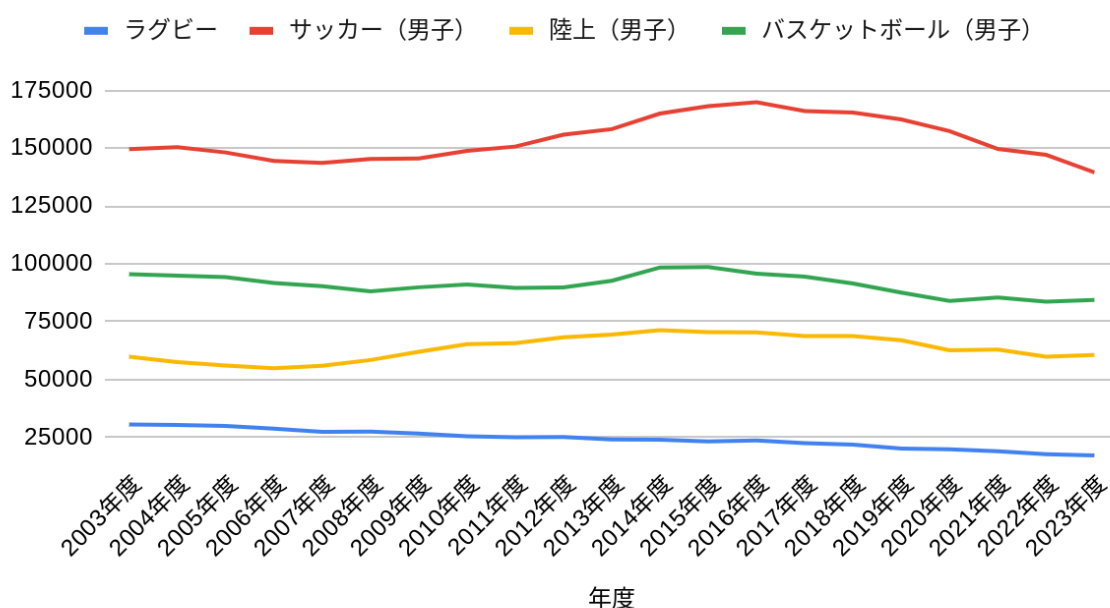
1. はじめに

競技別の全国高等学校体育連盟への加盟者数の推移(下図)を調べたところ、他の競技は国際大会やマンガのヒットの時期に加盟者数が増加しているが、日本開催のW杯の開催などがあっても、ラグビーは減少傾向にあることを知った。また、高津高校ラグビー部では4年前は40名を超えていた部員数が、現在は20名程度となっている。

私たちはラグビーの競技人口の減少の要因には、本人の怪我の懸念や漫画、テレビを見ることによる影響が少ないこと及び、保護者の経済的理由があると考えた。

そこで、本研究では、スポーツを始める・始めさせるきっかけを本人及び保護者目線から明らかにすることで、将来的にラグビー人口の増加につなげることを目的として研究を行った。

競技別の全国高校体育連盟への加盟者数の推移



2. 研究手法

ラグビー未経験者、ラグビー経験者、保護者の合計140名に対して、アンケート調査を行った。

《アンケート1:ラグビー未経験者の生徒用アンケート》

- ①今までしたことのある習い事、部活及び始めたきっかけと時期。
- ②自分の子どもにさせたいスポーツは何か。

《アンケート2:ラグビー経験者の生徒用アンケート》

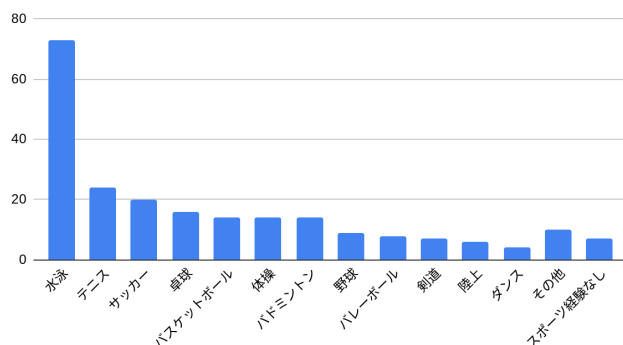
- ①ラグビーを始めたきっかけ及び時期。
- ②自分の子どもにラグビーを勧めるか。

《アンケート3:保護者用アンケート》

- ①子どもにさせるスポーツで一番重視する点は何か。
- ②自宅付近にラグビーができるスクールなどの環境があるか。

3. 結果

図1 今までにすることがあるスポーツの習い事、部活



《アンケート1》

図1より、水泳が最も多く、全体の約45%を占めていた。次いでテニス、サッカーでどちらも全体の10%程で水泳経験者が圧倒的に多かった。

図2 自分のこどもにやらせたいスポーツ

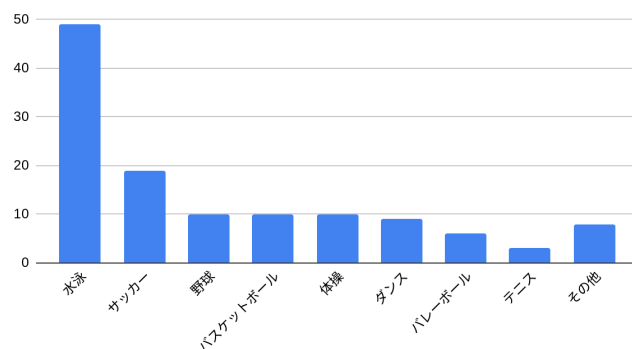
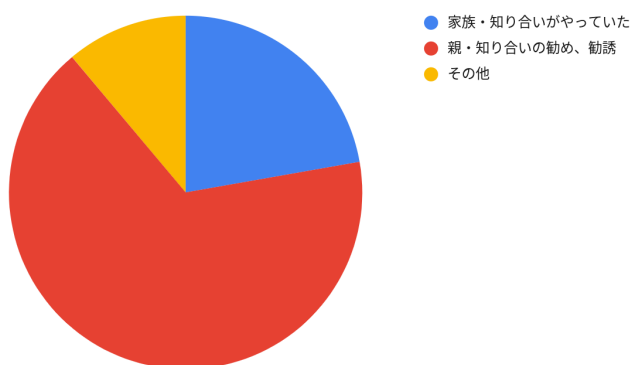


図2より、水泳が最も多く、全体の約60%を占めていた。次いでサッカーが約17%、野球が約7%であった。

図3 ラグビーを始めたきっかけ



《アンケート2》

図3より、「家族知り合いがやっていた」が22%程、「親、知り合いの勧め、勧誘」が67%程であった。また、その他には、楽しそうだからなどがあった。

図4 自分の子どもにラグビーを勧めるか

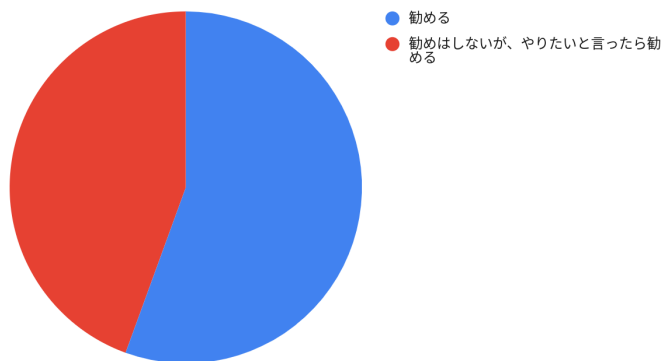
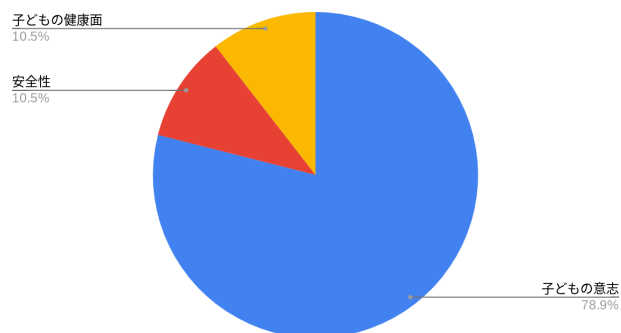


図4より、「勧める」は約55%、「勧めはしないが、やりたいと言ったら勧める」は約45%であった。また、進めないと回答した人はいなかった。

図5 子どもにさせるスポーツで一番重視する点



《アンケート3》

図5より、「子どもの意思」が78.9%と最も多く、「安性」や「健康面」は10.5%で、金銭面などを重視するという回答はなかった。

図6 自宅付近にラグビーができるスクールなどがあるか

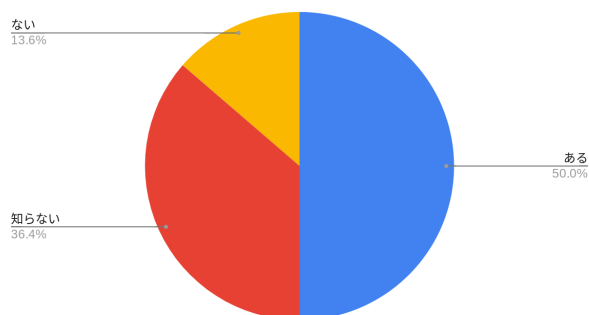


図6より、「ある」という回答は50%、「ない」という回答が13.6%、「知らない」という回答が36.4%であった。

4. 考察

《アンケート1》より、したことがあるスポーツと子どもにさせたいスポーツともに水泳が高いことから、自分がしたことがあるスポーツを子どもにも勧める傾向が高いと考えられる。《アンケート2》から、ラグビーについてもその傾向はあると考えられる。

また、《アンケート1、2》から、スポーツを始めるきっかけには家族や知り合いの影響が強い傾向にあると考えられる。

《アンケート3》より、安全面よりも子どもの意思を重視する保護者の方が多いため、ラグビーのプレー中の怪我等がラグビー人口の減少の要因であるとは考えづらい。また、自宅付近にラグビーができるスクール等があるかを知らない保護者が4割弱いることから、ラグビースクール等の宣伝の不足など

も原因の一つだと考えられる。実際に、大阪府におけるサッカー、フットサルスクールは58個であるのに対し、ラグビースクールは33個であり、ラグビーを体験できる機会はサッカーに比べて少ないことがわかる。

5. 結論

仮説では、ラグビー人口減少の要因は、本人の怪我の懸念や漫画、テレビの影響が少ないこと及び、保護者の経済的理由などか考えられるとしていたが、怪我や経済的理由は減少にはあまり関係がないことがわかった。また、漫画、テレビはラグビーを始めるきっかけにはなり得ないので、漫画、テレビの影響が少ないことについてもラグビー人口減少には関係がないとわかった。

実験から、ラグビー人口増加には、競技者本人のラグビーへの意欲とそのための家族、知り合いへの宣伝が大切なため、ラグビースクール等の宣伝、体験教室を増やすことが増加につながると考えた。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

公益財団法人 全国高等学校体育連盟 『加盟登録状況』
https://www.zen-koutairen.com/f_regist.html (2023-12-22)